



特集 農業農村を支える水守人

感謝の気持ちが 人をつくる

大きく変わった土地改良区の仕事

白鷹町土地改良区は、平成23年に白鷹土地改良区、鮎貝堰土地改良区、諏訪堰土地改良区の3つが合併してできた改良区である。その白鷹町土地改良区に勤めている、五十嵐総務課長兼工務課長にお話を聞いた。

五十嵐さんは、昭和52年に白鷹土地改良区に勤務して以来、改良区の仕事の変化を感じてきたと語る。勤務当初は、経理の仕事を中心としていたそうだ。当時も、ほ場整備が盛んに行われており、ハード事業推進の勢いを感じていた。そして、平成14年に21世紀土地改良創造運動が始まり、目に見えて仕事が変わった。土地改良区が主体となり、地域と密着した活動や改良区の仕事を知ってもらうための活動が増えたのである。「田んぼの学校」や「出前授業」という、地域の小学生に農業体験や農業用施設の見学してもらおうソフト面での活動である。その後、水路や揚水機場等の農業用施設の老朽化対策、維持修繕・管理の仕事が増え、どのように取り組むべきか悩んだこともあったと語る。

また、五十嵐さんは、平成21年から28年の8年間、農村環境保全指導員を務め、女性の目線から季節の行事「お月見」や、地域の憩いの場所を作るために水仙や彼岸花の植栽、伝統食「イル力汁」に関する活動を企画し実行した。平成29年からは、若手職員が引き継ぎ、新たな発想を加え活動を続けている。

改良区職員として一番大切なことは、地域や農業について、しっかりと知識と理解を持ちつつ、組合員の方々の立場に立ち、感謝の気持ちを持つことであると語る。職員研修の一つとして、地元の農家に依頼し、農業体験をさせていただいているそうだ。

※1, 21世紀土地改良創造運動：土地改良区が果たしてきた役割、機能を改めて見直し、水や農地を中心とした地域資源の保安全管理などの新たな役割について、地域の人たちと考えていこうという運動。

※2, 農村環境保全指導員：地域の活動に対し、指導助言を行うといった活動を山形県から任されている方々。

地域と密着した活動で大切さを知ってもらう

水利施設の多面的機能を多くの人に知ってもらいたいという考えから、地域との活動では植栽や看板を立てることで、農業用水利施設の認知を高めてもらおうという活動も行っている。また、女性ならではの発想から、地域の伝統行事や食に関する活動も企画し行っている。地域と密着した活動を続けることで、連携も上手くいっているそうだ。

土地改良区の職員だからこそ、農家の仕事をしっかりと知る必要があると考えており、職員の方には、田植えや稲刈りといった農家の仕事の体験・手伝いをしてもらうことで、研修も兼ねていると語る。



総務課長兼工務課長 五十嵐 悦子さん

田んぼの学校

鮎貝小学校で実施している取り組み。りんごの摘果、葉摘みを行い、最後に収穫体験を行ってもらう。また、昔ながらの手作業を中心に田植えから稲刈りまでの作業を行い、農業の一連の流れを学んでもらう。



花の植栽活動

東根保育園、さくらの保育園で行っている取り組み。園児たちに花や土に触れ、水が全ての生き物に必要なと感じてもらうことが目的。環境の美化活動へと繋がる。合併前の白鷹改良区から継続して行われている。



出前授業と施設見学会

東根小学校、鮎貝小学校、蚕桑小学校の4、5年生を対象に行われている。農業用水利施設と改良区の役割について、出前授業や施設見学会を通して自分たちの地域について知ってもらう。

